



夢咲花 木工作家
森本 英雄さん

試験管入り 杉のボールペン商品化

ブランド名は「cobcob」

桜井市鹿路、談山神社近くに工房「夢咲花(ゆめさか)」を構える木工作家森本英雄さん(70)が、「使う人に天然木特有の心地よい香りを楽しんでもらいたい」と生み出した試験管入りボールペン。杉の中で捨てられる運命の「コブ」の部分に着目。使い込むほど独特の油分が染みてきて、美しい木目とともに味が出る逸品だ。杉の香りをいつまでも封じ込めるために、化学実験用の試験管を思いついた。「cob cob(コブコブ)」がブランド名。森本さんは「ボールペンは小さなもの。木の良さが伝わる大きなものへと発展してくれれば」と、どこにもないオンリーワンの商品に将来を見据える。

Made
in
奈良

桜井市 夢咲花(ゆめさか)



商品化されたオンリーワンの試験管入りボールペン「cobcob」

18年前、山の木の切り出しから育林など山の仕事に従事していた森本さんだったが、突然、くも膜下出血で倒れて40日間の闘病生活。後遺症も無く奇跡的に命をつないだ森本さんは、本格的な山仕事は長男に託し「これから自分の好きなことをしてみよう」と一念発起した。

「木の良さを生かす商品は何か作れないか」と、1カ月考え続けてたどり着いたのが、柱や板として使えず捨てられていた「コブ」の部分加工しての製品づくり。早速、旋盤機を購入し、高等技術専門学校に通って技術を習得し、木のボールペンづくりが始まった。

杉のコブは削りにくく、穴が空いたりして最初は困難を極めた。それが平成14(2002)年ごろでしょいか。

製作工程は、18ミ角ぐらいに製材して、木取りして穴を開けて、真ちゅうパイプを接着。それを治具に入れる。削っただけのものに紙やすりをかけ、治具に入っている金具まで削り上げる。金具より心持ち大きくする。最終的に削って、紙やすりで仕上げる。

自分に合った治具を作れば使い易い。金具も自分で工夫して合うようにする。材料はあくまで奈良産にこだわりのデザインは客のオーダーや使用の感想を参考に少しずつ変えていった。販売への大きな手掛かりとなったのは、平成20(2008)年奈良グッドデザイン賞を受

奈良産の杉の「コブ」が材料 美しい木目と心地よい香り

賞したこと、県のアンテナショップに入れたこと。

ただ、ボールペンの販売はほとんどしていないのが現状。たまたま記念品という形で数百本単位での受注が来る。今は東京まほろば館で、7、8年、JR奈良駅のアンテナショップ「うまいものプラザ」に4年ほど置いてもらっている。年間でボールペンは500〜600本製作。桜井市のふるさと納税品の一つでもある。白っぽい高野槇(まき)の製品もあるが、杉のコブの方が主力商品。

「杉のコブの方が人気があります。杉は匂いがするから、試験管に入れて閉じ込めるような形で販売しよう」ということになりました。大阪の方がデザインを考え、販売をしてくれています。試験管入りで5000円です。高野槇の方も5000円です。どちらも税抜き価格です」と、売れ筋を外国人にも向ける。



試験管内に香りを閉じ込めたボールペン。右側の白っぽいのが高野槇の製品



製材して木取りした杉のコブのボールペン材料

ボールペンを作る上で一番気を付けていることは、動く面をいかにきれいにさせるかということ。「1日で10本作ります。木取りから何から何まで。3日あると30本できるか」といって、できません。他のことに時間がかかりますので」と屈託がない。

ボールペンとしての良さは、他では出せない匂いと木目。縄文杉と言われている屋久杉と色がなく、コブはよく似ている。それだけボールペンに使うコブの部分は希少価値があるという。森本さんは「コブがどうしてできるかというと、県の森林技術センターによると、立木の時に、木と木が擦れ合ったりして傷になり、それが入ってコブになります。それだけ強いんです」とも。

妻の富美子さん(67)と2人暮らし。長男は住まいのある橿原市から出向いて山仕事に駆り出される。ボールペンづくりとなると、興味が遠のく。「高等技術専門学校の平成19(2007)年度卒の若い方で、興味を持ってくれている方が広陵町にいます。すでに、広陵町にある家内の父親の工場にレーザー加工機を入れ、貸したりしています」と、その後継者へ期待をのぞかせる。

これまでも定年退職した方とか、ボールペンを作りたいと工房に来た方が4、5人いる。すでに、杉の香りのする木のボールペンづくりをしている方が大阪の方で3人ほどいるという。「最低これだけは覚えておいてくれよ、ということだけを教えました」と森本さん。

「今はコロナ禍の関係で厳しいですが、工房に来てもらうことを主力に置くのもいいかな。できるのを見てもらうのも、一つの方法です。ね。どのような木からどのようにできるのか。昨年の正月には東京から若い女性が出来てくれました。子どもさんには自然木で体験してもらえれば」と、都会からの移住希望者の舞台として、杉のコブを使ったボールペンづくりの将来の期待を寄せている。

.....

芯は市販のものと入れ替えができる。「クロス製8514」と「三菱鉛筆製SK8124」を指定。クロス製は太字と細字がある。ボールペンを文具店に持って行けば、替え芯をやってもらえる。工房「夢咲花」への問い合わせは0744(49)0117へ。